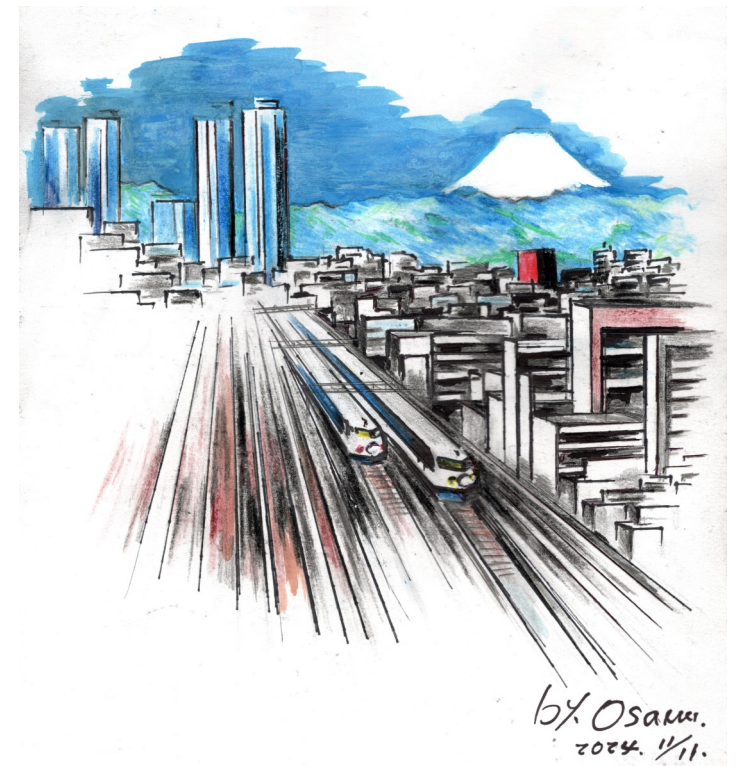


ふれあい雪谷

令和7年1月 新年号 通巻第137号



相生橋

この陸橋から武蔵小杉のタワマン群と丹沢山系の山々、そして富士山が見えます。冬期富士山頂は白く輝き、その存在を増します。眼下では上り・下りの新幹線が行き交い、瞬時、視界から消えてゆきます。

小池・今成 修さんの作品

「ふれあい雪谷」のホームページはこちらからご覧いただけます。



大田区青少年対策雪谷地区委員会をご存じですか？

私達の住む大田区の雪谷地区には大田区青少年対策雪谷地区委員会（通称・雪谷青少対）があります。本会は地域社会の力を結集し青少年の健全育成を図る事を目的としています。

構成委員は雪谷出張所管轄の各自治会会長及び代表、小中学校校長、青少年委員、スポーツ推進委員、小中学校PTA会長、保護司、民生委員などで現在70名ほどが在籍の組織となっています。

年間の主な活動としては洗足池子どもガーデンパーティー/野球・ソフトボール大会/洗足池ホテル鑑賞会/子ども夏のつどい/9自治会スポーツまつり/サッカー大会/リトルリーダー講習会/委員研修会/広報誌発行などで、各事業の企画運営は役員会・全体会・実行委員会・各部会で行っています。

令和6年10月20日（日）には9自治会スポーツまつりを会場校となった池雪小学校の多大なご協力により、5年ぶりに盛大に開催する事ができました。当日は天候に恵まれ地域の多くの方々が15種目の競技に参加くださり、特に自治会対抗戦では熱戦が繰り広げられ皆様に楽しんでいただきました。

事業は大変な事も多いですが、地域子どもたちが健やかに過ごしていただくための楽しめる場づくりに頑張っています。このような活動に賛同し協力をしていただける方を歓迎いたします。

（東雪・永久保 美代子）

** 編集後記 **

あけましておめでとうございます。

昨年も様々なことがありました。パリオリンピックでの日本選手の大活躍やノーベル平和賞の受賞、一方国内では能登半島地震、続いての豪雨災害も重なるなど、日本各地での自然災害も多くありました。一層防災の意識を高めていかなばという状況の中、本号にも田園調布消防団員の方の記事が掲載されています。地域のために頑張っている様子、大変心強く思いました。私達も地域力を益々強め、雪谷地区のためになる情報を皆さまにお届けしていきたいと思っています。

（東雪谷東中・小山 智恵子）

[編集委員]

笹丸・小林 忠雄/雪谷石川台・長谷川 可織/希望ヶ丘・阿部 倫子/
南雪谷・河野 洋一郎/東雪谷東中・小山 智恵子/東雪・永久保 美代子/
池の台・柏 三八子/小池・小山 憲生/上池上・船山 康夫

ふれあい雪谷(創刊・平成2年12月20日) 年4回発行
(1月・新年号/4月・さくら号/7月・あさがお号/10月・もみじ号)の1日発行
[発行日] 令和7年 新年号 1月1日(通巻・第137号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]ふれあい雪谷編集委員会
[連絡先] 大田区地域力推進部雪谷特別出張所
〒145-0065大田区東雪谷三丁目6番2号 ☎3729-5117 FAX3729-1826

自治会「ルー」記事：雪谷石川台自治会 地域力の向上を目指して

手塚前会長の突然の引越しにより急きょ、雪谷石川台の自治会長という大任を拝しました細井宏二です。私は45年にわたり東洋製罐に勤務し、退職後は地域貢献をしたいという事で消防団に入団しました。合わせて自治会の活動にも参加してきました。今回、自治会長ということで、戸惑いと、いまひとつやり抜く自信が持てずにはいましたが、自治会の皆様のご協力によりまして、なんとかここまで無事にやってくることができました。

近年の日本全国を見てみると阪神淡路大震災や東日本大震災の大津波による想像を絶する被害、そして、今年の元旦には能登の大地震、更に追い打ちをかけるように線状降水帯による大災害、想定外の被害が次々と起きています。

こういう時に、一番力になるのは、なんといっても「地域力」だと思います。近隣に住む人達が力を合わせ災害に立ち向かう時、大きな力となって共に災害を乗り越えていけるのではないかと思います。自治会の活動は、そうした御近所の方々が身近な交流を通して共に理解し合い「地域力」を高めていける一つのチャンスだと思うのです。

私の目標は、地域の皆様と、まずは挨拶をかわしながら親しく交流して顔の見える地域にすることです。安心安全な町づくりを目指して全力で頑張っていますのでよろしくお願ひ致します。

（雪谷石川台・細井 宏二）



細井宏二会長

雪谷地区の表彰者

○令和6年度秋季善行表彰

石垣 晴子

○令和6年度大田区青少年対策地区委員会永年功労者表彰

江口 潤司、酒井 俊一

笹丸の餅つき

笹丸自治会では毎年1月に餅つき大会をします。前日から臼、杵をきれいに洗って整え、もち米を洗い、豚汁の準備をします。当日は蒸籠(せいろ)で米を蒸し、其の場でつく、昔ながらの本格的な餅つきで、老若男女だれでも参加OKです。ついた餅はその場で黄な粉もち、あんもち、納豆もち、海苔巻きなどにして通りがかりの人も含めて皆さんにふるまいます。以前東工大(現東京科学大学)に留学していた外国の学生さんが通りがかり、餅つきを珍しがって、餅つきにも、試食にも参加して楽しむということもありました。

私自身の餅つき体験と言えば、子供の頃からずっと実家(広島県)でやっていたことにさかのぼります。年の暮れが近づくと家じゅうみんなでやる行事でした。実家で使っていた臼は東京のように木製の臼ではありません。御影石の真ん中を丸く大きくくり抜いた石の臼で、明治よりもっと前から使っていたものだということです。近くで御影石がとれる所があったから石の臼なんだと聞いていました。餅つきの朝はその臼をきれいに洗ってつく前に熱湯を張って臼を温め、竈(かまど)にせいろを載せて米を蒸し餅つきが始まります。つく前のほかほかの蒸し米を小さな一口大のおにぎりに握ってもらって、ふうふう言いながら食べるのも楽しかったことです。

つき手はたいてい男の人で手返しをするのが女の人です。餅つきというのは手返しする人のリズムに合わせてつくもので、つき手は杵を持ち上げるけれど、力を入れるのはそこまでで、返し手が返した餅の上にすんと落とすだけ。手返しするものはうまく返せなくても二度手を出してはいけない。それは怪我のもと。リズムよくトントンとつくのが良い。そんなことを親たちに言われながら、父・兄・弟たちがついていました。つきあがれば粉を敷いた大板の上に持ってきて、広島地方では正月の餅はのしもちではなく丸餅ですから母が少しずつ手で千切ります。それを子供も含めて並んだみんなが丸めて、もろぶたに並べてゆきます。餅の切り手が上手ならほとんど丸めなくてもいいくらい手で切ただけで丸い形になります。母が亡くなるまでこの習慣は続いていて遠くに離れていた兄弟姉妹たちも自分たちの子供もつれて帰ってきていた年越しの行事でした。

掲示等で日時を目にしたら、どうぞお出かけください。お待ちしております。

(笹丸・森信 節子)



餅つき大会の様子

消防団と自治会と地元愛

私は田園調布消防団第七分団員であり、雪谷石川台自治会役員でもある雪谷をチョー愛する地元民です。

消防団に入団したきっかけは、子供の頃、野球仲間だった同級生に消防団員がおりまして、常に入団猛烈アタックをされており、ある日酔った勢いで入団しました。あれからかれこれ10年です。

消防団の一大イベントは「消防操法大会」です。操法大会は3年間選手を務めさせてもらい上位入賞を果たしました。

皆さんは消防団のイメージってどんな感じでしょうか？実は地味に結構、活動・活躍をしています。防災訓練での消火器・AEDの使い方指導、イベントでの応急救護・警戒、もちろん火事の際は可能な限り早く駆け付け消火活動を手伝います。なんといっても「地域の防災リーダー」ですから。地元貢献したい方、制服に憧れを持っている方、若人から年配者まで幅広く募集しております。

自治会のお話をしますと、役員になってかれこれ7年目となります。入会するまでは、仕事中心で、地域の活動などはほとんど解っていませんでした。ところが入会するとびっくりです。色々な活動をしていましたね。

自治会での大きなイベントは納涼盆踊り大会と雪ヶ谷八幡神社例大祭ではないでしょうか。盆踊り大会では私達自治会員が焼きそば・フランクフルト・シューマイ・くじ引き等担当しますので、出店準備やら会場設営やら私のように初老でも体に鞭打ってやらなければなりません(来年からはちょっと手を抜かしてもらいます(笑))。

私は防火部に所属してまして「年末警戒巡回」を実施しています。自治会も地味に結構良い活動をしています。

地元愛にあふれている方、町の顔役になりたい方、幅広く募集中です。色々な、やりがいがありますよ。

最後に、これからも安心・安全と住み良い町作りに貢献して、未永く雪谷に住み続けたいと思います。

《わが雪谷は永久に不滅です！》



(希望ヶ丘・桜井 敬久)

老人会に入ってみました

南雪谷に住み始めたのは45年前の春でした。夫の母が一人で暮らせなくなり、小学生と幼稚園児をかかえ、一家で引っ越してきました。

それから10年ほど育児と介護の日々で、ママ友たちとの交流はありましたが、地域の活動までは広がらず70代になりました。学生時代の友人なども亡くなったり疎遠になったり、ふと気づくと身辺が寂しくなっていました。

その頃、地域活動に長年携わっているご近所の友人から、「南雪会(なんせつかい)でポッチャのサークルができるわよ」と聞きました。南雪会とは南雪谷の老人会のことです。老人会にはちょっと抵抗があったのですが、以前から興味があったポッチャにひかれて即入会しました。

ポッチャは初めてでしたが、意外と奥が深く楽しみになりました。地域の方々とはほとんどなじみがなかったのが、最初は少々孤独を感じていましたが、通っていくうちに、カードの会もできて皆さんとお話ができるようになっていきました。

80代後半の方、90代の方などの元気なお姿に力をもらい、自分の老いとも上手に付き合っていこうと思うようになりました。また、その中で老人を孤立化させないように家から引っ張り出そうと尽力している方々の姿が見えるようになり、超高齢化社会の昨今、大切な会だなあと実感しています。

(南雪谷・福永 陽子)



ポッチャ大会の風景



カードの会の様子